

# 「少子化対策と子ども・女性・高齢者に対する犯罪について」 アンケート実施報告

健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課  
環境生活部くらし・交通安全課

今後の子どもが豊かに育つ地域づくりに向けた取組の重要な資料とするほか、子ども・女性・高齢者に対する犯罪に関する実感を把握し、「安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム」の資料とするなど、今後の施策に生かすため、少子化対策に関する意識などについて、アンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

## 【アンケート概要】

### 1. アンケート実施期間

平成28年9月27日（火）から10月11日（火）

### 2. 意見募集の結果

対象者数 1, 362人

回答者数 915人（回答率 67%）

### 3. 回答者の属性

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	総計
男	22	73	122	101	103	35	456
女	45	116	112	97	76	13	459
総計	67	189	234	198	179	48	915

## 1. 三重県子ども条例について

Q1 県では、「子どもが豊かに育つことができる地域社会」の実現をめざし、「三重県子ども条例」を平成23年に定めています。あなたは、「三重県子ども条例」のことを知っていますか。

Q2 Q1で「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」と答えた方にお聞きします。あなたが「三重県子ども条例」を知ったきっかけは何ですか。

子ども条例について、28.6%の方が「名前も内容も知っている」、「名前だけは知っている」と回答した一方で、71.4%の方が「全く知らない」と回答しており、引き続き、子ども条例について皆さんに知っただく取組が必要です。（図1）

なお、条例を知ったきっかけは「県や市の広報紙」の割合が41.0%で最も高くなっています。

図1 子ども条例の認知度

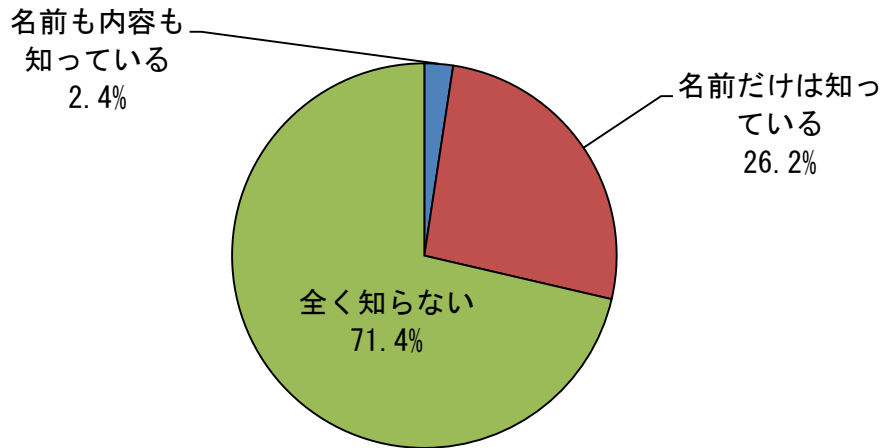
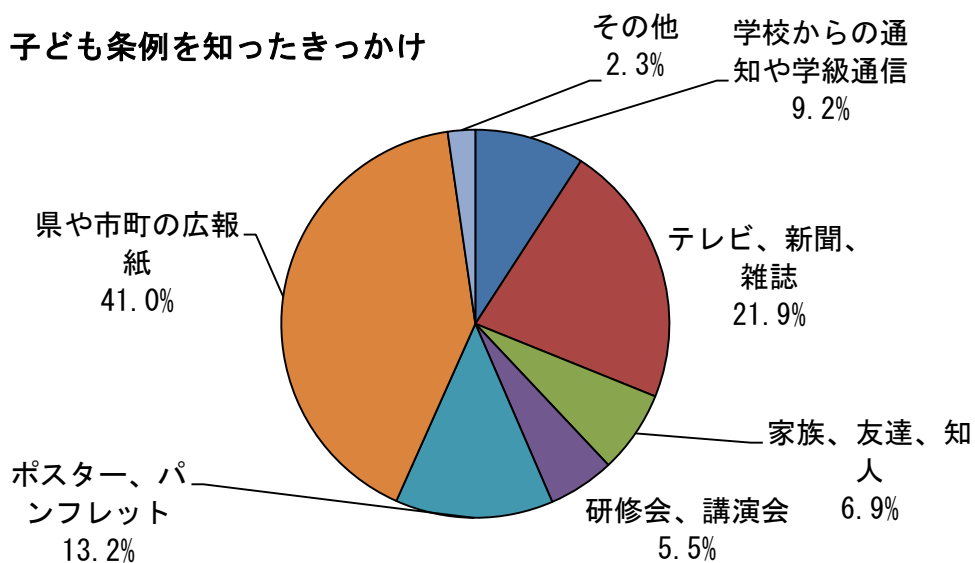


図2 子ども条例を知ったきっかけ



## 2. 少子化に対する認識について

Q3 県では、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」に基づき、さまざまな少子化対策の取組を進めていますが、地域社会においてその効果や成果が現れてきていると思いますか。

Q4 15歳未満の子どもの数が35年連続で減少していますが、こうした少子化の状況に危機感を感じていますか。

少子化に対する危機感について、92.9%の方が「感じている」、「どちらかといえば感じている」と回答しています。

しかし、県の少子化対策の取組による効果や成果が現れているかという質問に対して、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した方が42.2%、「わからない」と回答した方が47.7%と、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した方の10.2%を大きく上回っており、県民が取組の効果や成果を実感できるよう、引き続き少子化対策を進めていく必要があります。

図3 少子化対策の取組の進展について

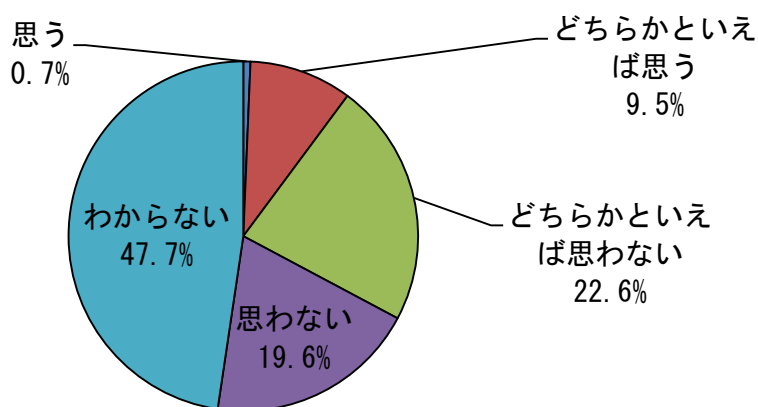
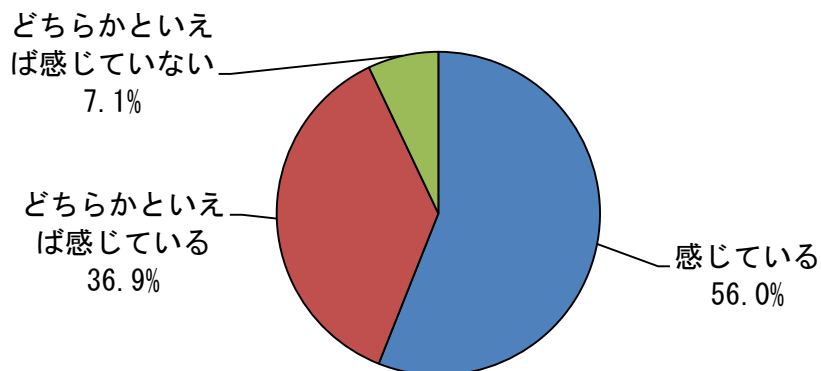


図4 少子化に対する危機感



### 3. 子どもや子育て家庭を応援する取組について

Q5 あなたは、企業や団体等において、子育てと仕事の両立支援や子ども向けのイベント開催など、子どもや子育て家庭を応援する制度や取組が進んでいると感じますか。

Q6 県では、子どもや子育て家庭を応援する企業を増やしていきたいと考えています。県内の企業が、従業員に対する子育て支援として、どのような取組を行うことを期待しますか。

Q7 県内の企業が、地域の子どもや子育て家庭に対して、どのような取組を行うことを期待しますか。

「子どもや子育て家庭を応援する制度や取組が進んでいると感じるか」という質問に対して、「どちらかといえばそう感じない」、「そう感じない」と回答した割合は55.4%、「わからない」と回答した割合は12.1%と、「そう感じる」、「どちらかといえばそう感じる」と回答した割合は32.5%を上回っており、取組が十分でないと感じる割合が高いことから、引き続き、企業・団体等への働きかけを進めていく必要があります。

「従業員に対する子育て支援として企業にどのような取組を期待するか」という質問に対しては、「休暇などの制度を利用しやすい雰囲気づくり」と回答した割合が男性、女性ともに最も高いという結果になりました。

次いで、期待する項目として、「柔軟な働き方を選定できる制度の充実」、「経済的支援の充実」という結果となりました。男性は、「柔軟な働き方を選択できる制度の充実」と回答した割合が高く、経済的支援よりも「働き方」を重視している傾向が見てとれる一方、女性は、経済的支援も重視する傾向があります。

また、「地域の子どもや子育て家庭への支援としてどのような取組を期待するか」という質問に対しては、「子育て家庭に対する割引や託児室の設置などのサービスの提供」が67.1%、「従業員の子育て支援活動への参加の奨励」が51.0%、「見守り活動など地域安全活動」が33.0%の順で高いという結果となりました。

このほか、「その他」の回答の中では、子ども向けの会社見学や学童保育の設置などを求める意見がありました。

図5 子どもや子育て家庭を応援する取組等が進んでいると感じるか

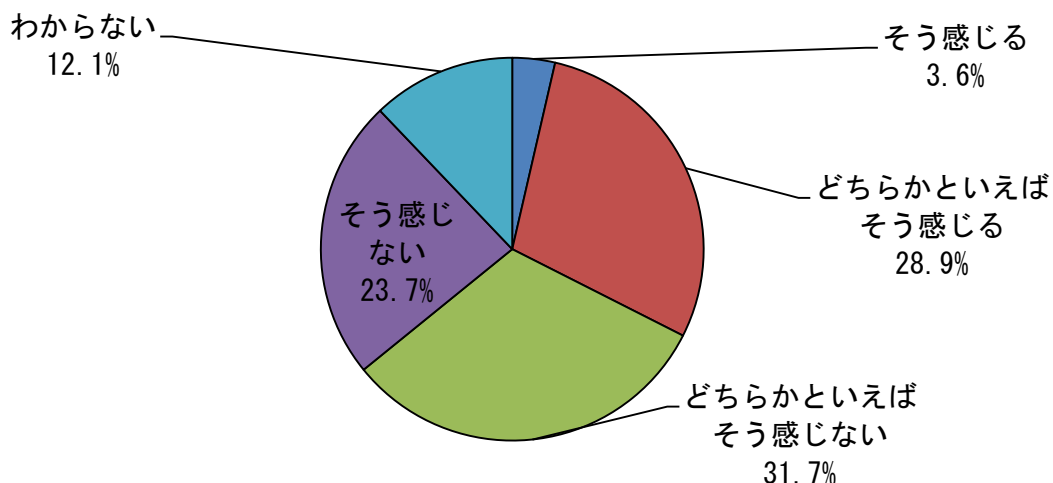


図6-1 従業員に対する子育て支援として企業に期待すること（男性）

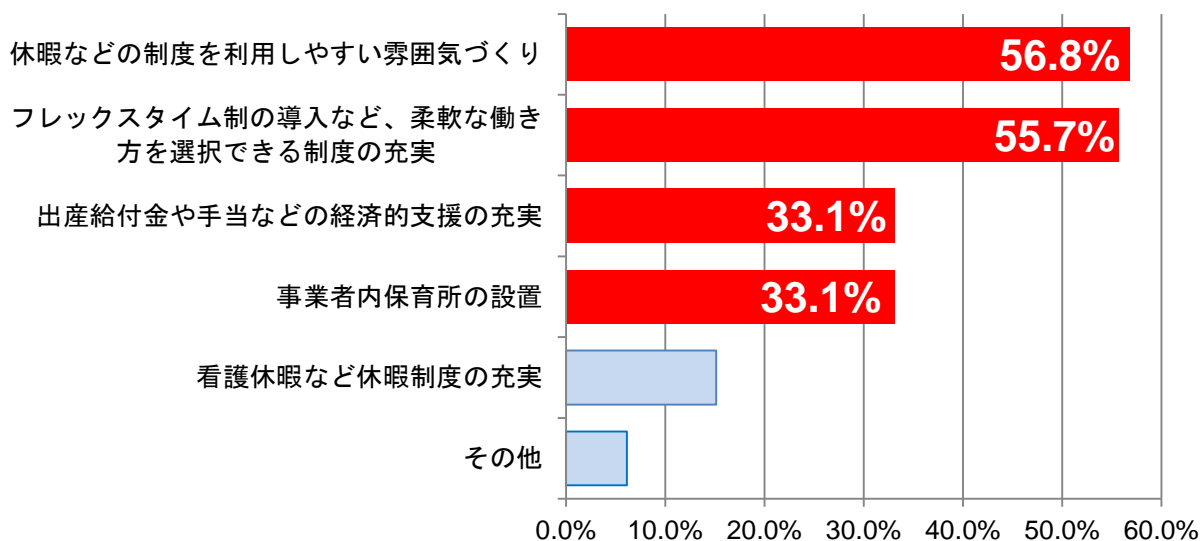


図6-2 従業員に対する子育て支援として企業に期待すること（女性）

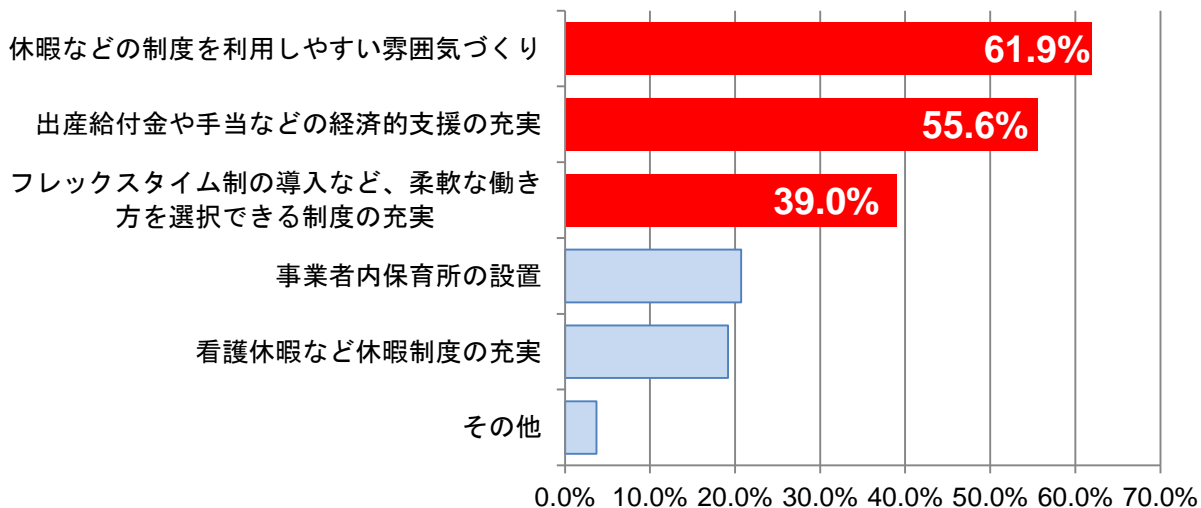
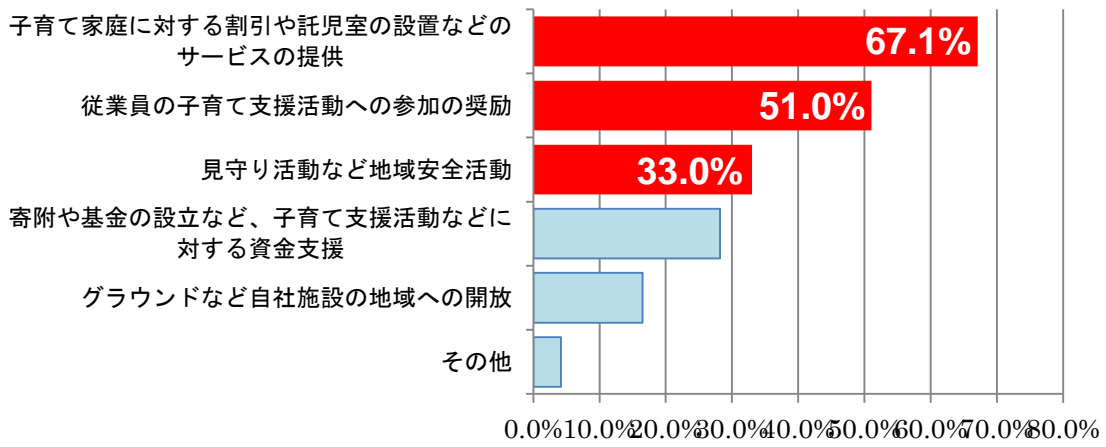


図7 地域の子どもや子育て家庭に対する子育て支援として  
県内の企業に期待すること



### 3. 家庭における育児や家事の分担について

Q 8 あなたは、祖父母が育児や家事の手助けをすることは望ましいと思いますか。

Q 9 父親が育児をすることについて、あなたはどのように思いますか。

「祖父母が育児や家事の手助けをすることが望ましいと思うか」という質問に対して、70.0%の方が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答しています。

また、「父親が育児をすることをどう思うか」という質問に対して、「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」、「父親も母親と育児を分担するなど積極的に参加すべき」と回答した割合が79%と、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」と回答した割合の5.6%が大きく上回っています。

図8 祖父母による育児や子育ての手助け

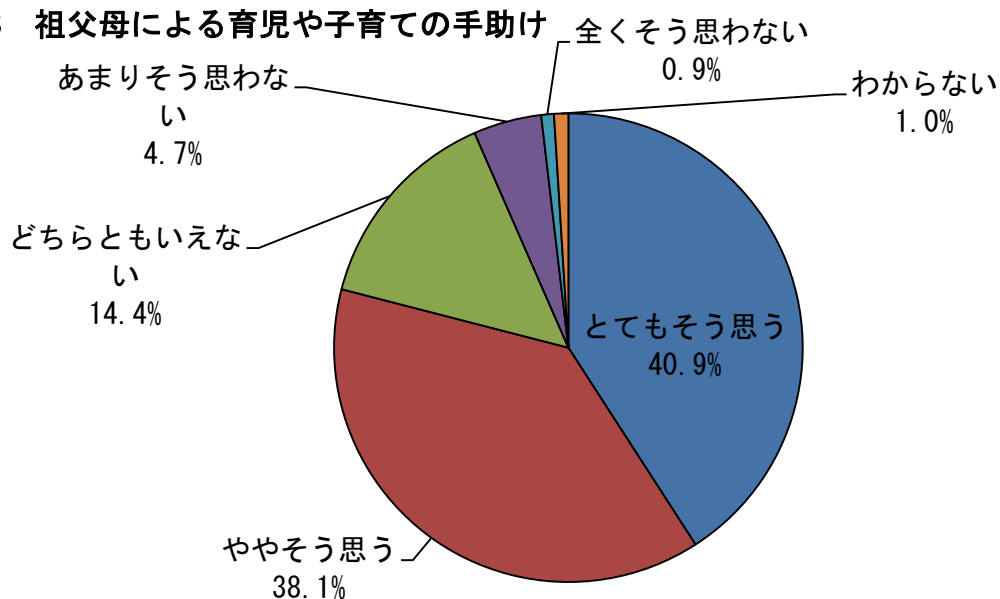
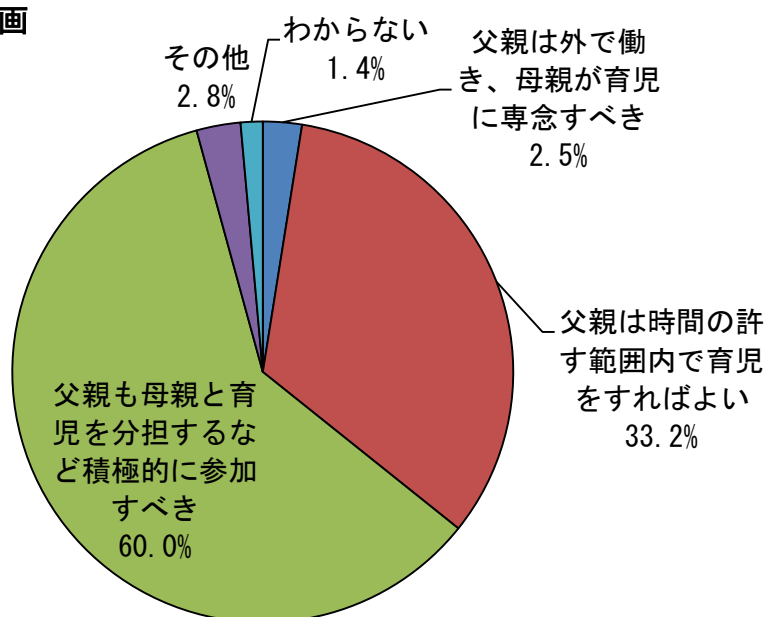


図9 男性の育児参画



#### 4. 結婚支援の取組について

Q10 日本では、「未婚」「晩婚」が増えてきています。あなたは、未婚の人が結婚していない理由は、以下のうちどれだと思いますか。

Q11 20代から30代の未婚者の多くが結婚を望んでいるにもかかわらず、なかなか結婚できていない状況にあります。県では、企業にも未婚の従業員の結婚を応援してほしいと考えていますが、県内の企業は、どのようなことに取り組む必要があると思いますか。

「未婚の人が結婚していない理由はどれか」という質問に対して、自由な生活を失いたくない」、「収入が少ない」、「出会いがない」と回答した割合が、同程度の水準で高くなっています。

「企業でどのような結婚支援に取り組む必要があるか」という質問に対しては、「休暇制度の充実」が59.1%、「婚活イベントの開催など出逢いの場の提供」が50.4%、「労働時間の削減」が42.3%の順で回答した割合が高くなっています。

図10 未婚化・晩婚化が進んでいる理由

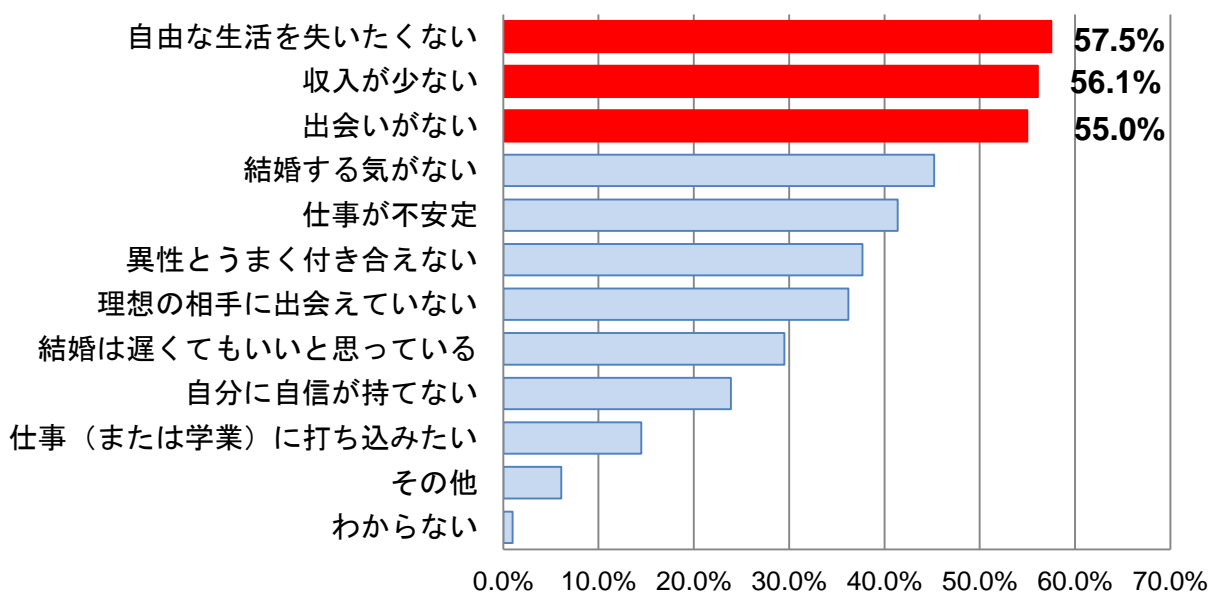
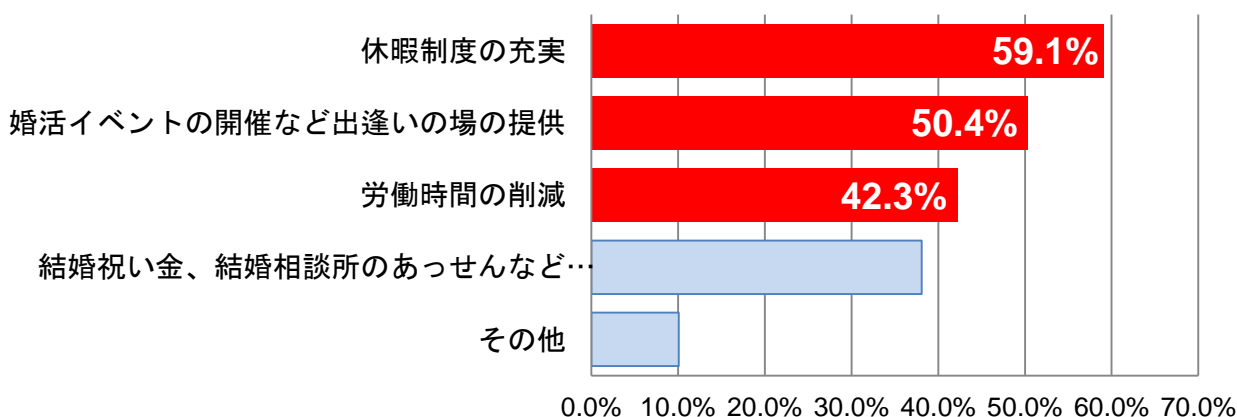


図11 企業に期待する結婚支援の取組





## 5. 少子化対策について

Q12 少子化対策や施策について、効果的だと思うことをご自由にご記入ください。

効果的だと思う少子化対策や施策について自由に記入をお願いした結果、様々な観点から多くのご意見やご提案をいただきました。

### 主な意見

#### ①子どもや子育て世帯等に対する経済的支援の充実

- ・奨学金の充実など教育費用の軽減
- ・子どもの医療費の無料化
- ・行政等による結婚祝い金の拠出
- ・不妊検査の無料化
- ・子育て世帯の税負担の軽減
- ・ひとり親家庭への手当の増額

このほか、多子世帯への経済的な支援の充実を求めるご意見もありました。

#### ②子育てと仕事の両立を図りやすい環境の整備

- ・待機児童の解消
- ・学童保育の充実
- ・病児保育の充実
- ・企業や従業員に対する育児の重要性や理解を促す講習や教育の実施
- ・子育て中の女性の職場復帰や再就職の支援

#### ③楽しく子育てができる「まちづくり」の推進

- ・授乳室、赤ちゃんルームの充実
- ・ベビーカーでも楽に通れる通路の確保
- ・屋内遊具施設の設置の促進

#### ④結婚支援の充実

- ・企業同士の懇親会の開催など若者が交流する機会の提供
- ・非正規労働者の労働条件の改善
- ・若者の所得の向上
- ・若者の長時間労働の是正

#### ⑤情報発信の強化

- ・行政が提供している様々な子育て支援施策、婚活の情報などの積極的な情報提供
- ・子育ての楽しさなどプラス面の積極的な発信
- ・ライフプラン教育の充実

## 6. 子どもや女性、高齢者の安全安心について

Q13 あなたは、お住まいの地域の中で、「子ども」が犯罪被害から守られていると感じますか。

Q14 あなたは、お住まいの地域の中で、「女性」が犯罪被害から守られていると感じますか。

Q15 あなたは、お住まいの地域の中で、「高齢者」が犯罪被害から守られていると感じますか。

地域の中で子どもが犯罪から守られているかについて、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した方が42.5%と、「感じない」、「どちらかといえば感じない」と回答した方の35.7%を上回っています。

一方で、地域の中で女性が犯罪から守られているかについては、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した方が25.1%と、「感じない」、「どちらかといえば感じない」と回答した方の46.1%を大きく下回っています。

同様に、地域の中で高齢者が犯罪から守られているかについても、「感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した方が38.7%と、「感じない」、「どちらかといえば感じない」と回答した方の43.8%を下回っています。

図12 子どもに対する安全安心

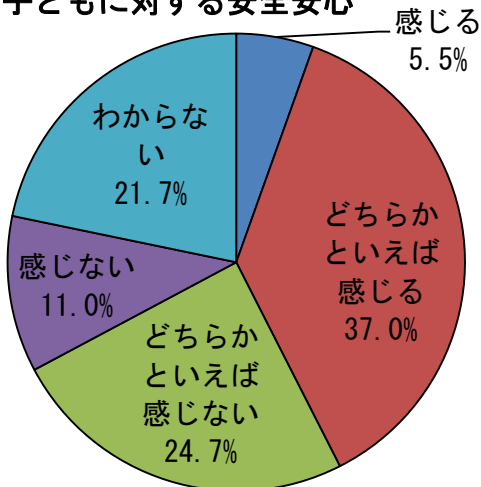


図13 女性に対する安全安心

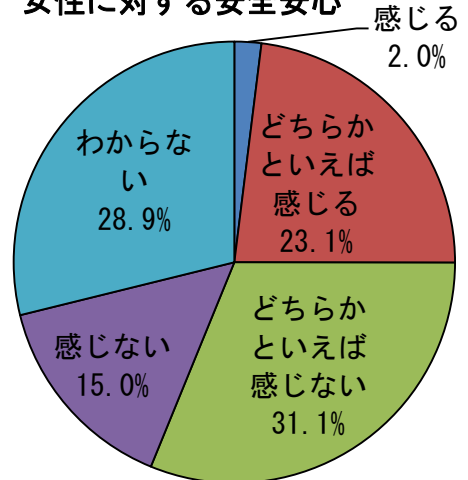


図14 高齢者に対する安全安心

